

あかりだより

発行：2018年8月

発行者：社会福祉法人 あかりの家

題字：金谷 明朝

グループホーム友愛の家 開設2年目



米を研ぐ



食卓の準備



してもらうから自分でするへ まずは朝食準備に挑戦

いままで家族や施設にしてもらっていたことを 職員と一緒に自分たちでチャレンジしています



お茶をいれる

味噌汁をつくる



シンクをきれいに



3つのグループホーム

希望山荘日笠（法人運営16年目） 「体験入居」の受け入れ

○「体験入居」って？

- 入所施設・病院生活から退所・退院し、地域で暮らしたい。
- 家族と離れて暮らしたことがないか、将来的にグループホームへの入居を検討している。

このような場合に、短期間の体験利用が可能になりますが、市町の支給決定等の手続きが必要です。



○利用された様子から

（Aさん）

保護者は「食器洗いや洗濯はうちの子はできないかも…」と心配されていましたが、いざ始めると、周りに合わせて自分でされようとしていました。

他の利用者から「こうするねんで」とか「困ったら〇〇さんに聞いたらええねんで」と助け合う場面もみられました。

（Bさん）

生活に必要な物の用意を保護者がしてしまうと、取り出すときにどこに何が入っているか分からず、本人が困ることがありました。「次回は自分で服をいれておいでよ」と約束すると、意識できるようになり、体験入居での取り出しも積極的に出来るようになりました。



体験入居後、保護者に写真を見せながら様子をお伝えすると、「やればできるんやなあ」と喜ばれて、それを聞いている利用者さんの表情が誇らしげでした。

オリーブの家（開設4年目） ご近所さんとのお付き合い -「いつも挨拶してくれるんですよ〜」-

平成 29 年 3 月、初めて消防署の方を交えての消防訓練を実施しました。

当日は非常ベルが鳴ったり、消防車も来られたりするので、事前に利用者と職員とで近隣の方に挨拶回りをしました。「こんにちは。オリーブの家です…」と、一軒一軒ベルを鳴らしていきます。そこで「いつも、挨拶してくれるんですよ〜!」「頑張ってますね〜!」と、嬉しい言葉をいただきました。

当日の消防訓練、ご近所の方も見に来てくださいました。災害が起きたときの対応として「自助 共助 公助」と言われたりします。共助のためには、日常、地域の方とのふれあいは欠かせません。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



友愛の家（開設2年目） 「朝食作り」に挑戦中！ （表紙に掲載）

開設して、1年が経ちました。あかりの家から移行された方を中心に、5名の方が暮らしています。

友愛の家での暮らしにも慣れて、それぞれの役割ができてきました。

目玉は、今まで厨房や家族が作っていた朝食を、職員と一緒に作ることです。今までしていなかったことチャレンジ!

帰宅したときにも、自主的にされる方も登場しています!



働くことをとおしてQOLを高める！

ワークホーム高砂

“クオリティー・オブ・ライフ（QOL）”は「生活の質」のこと、大きくは「人生の質」を表す言葉です。障害者支援がADL（日常生活動作）の向上を目的としていた時代に、発想の転換として使われたのが「ADLからQOLへ」というスローガンでした。

ワークホーム高砂は、働くことをとおして、その人らしい豊かで質の高い人生を応援する事業所です。納豆づくりやクリーニング作業をとおして「ADL」も「QOL」も大事にしています。今回ご紹介する利用者さんは、働くことをとおして張りのある豊かな人生を具現化しつつある方々です。

お父さんとゴルフの打ちっばなしに行ける



納豆作業班でラベル貼りのスピードがNo1の自閉症のAさん。グループホームに入居している彼の一番の楽しみは週末帰省です。その中でも工賃を持って帰る日には「お父さんとゴルフの打ちっばなしに行ける」とお迎えが待ち遠しくてたまりません。「パパとゴルフ行くの」と何度も教えてくれます。

ご両親と過ごす大切な時間、自分の得た工賃で「次はカラオケに行こうか、パチンコに行こうか」と思いを膨らませながら、せっせと“なっとこちゃん”を作っています。



東京パラリンピックに出場したい



クリーニング作業班でシーツの結束をテキパキとこなすBさんは、兵庫県下でも有名なアスリート。全国障害者スポーツ大会に陸上競技800mに3度も出場し、銀メダルを獲得したこともある実力の持ち主です。練習場所は自宅周辺の道路や新幹線の側道と加古川の河川敷。「僕は2020年東京パラリンピックに出場します!」と高い目標を掲げる彼は40歳台。

遠征費も全て工賃で賄っているそうです。「健康第一!ケガや事故に気を付けてね」と伝えると、満面の笑顔を返してくれます。夢を持つことって素敵ですね。



今度オーディション受けるねん



納豆作業班で納豆菌を噴霧した煮豆を計量しながらカップ入れに奮闘するCさん。彼は、毎週末の土曜日曜に神戸まで“ヒップホップダンス”のレッスンに通っています。

おっとりした性格なのに、アップテンポの曲に合わせて踊る姿は別人!「工賃で月謝はらうねん」と言うCさんは「今度、オーディション受けるねん」と挑戦もしています。

難しい振り付けを覚えて踊って見せてくれるCさんの晴れの舞台を応援に行ける日を楽しみにしています。



今度の日曜日はエステやねん



クリーニング作業班のたたみ班で個別洗濯を丁寧に畳み、袋詰めするDさん。彼女の楽しみは2カ月に1度のアロマテラピーサロンに行くこと。「お母さんがちょっとお手入れしたらと申し込んでくれた」とのキッカケから通うことに。「6万円するねん」の年会費は工賃から払っています。

「今度の日曜日はエステやねん」と、待ちわびている彼女の化粧つけない素肌はつやつやしています。身も心もリフレッシュして女子力アップ!!



初の試み クリスマス会

児童デイサービスあかりの家

児童デイサービス あかりの家がスタートして初めて、全利用児童を対象にした行事を開催しました。案内のお手紙を見てから、この日を楽しみにしていた子どもたち。

折り紙が得意な子は部屋の装飾を。絵が得意な子はポスターを。それぞれが得意なことを活かして、準備から楽しんでいました。当日は大はしゃぎする子、お気に入りの洋服を着て、おしゃれをしている子、自前のサンタクロースの帽子をかぶってきた子、強張った顔で緊張している子…



みんなが、いつもと違う顔。
普段の利用の時には、なかなか見ることのできない
“輝く”表情をたくさん見ることができました。



神戸製鋼 高砂製作所さん ありがとうございました!

昨年度に引き続き、今年も株式会社神戸製鋼所 高砂製作所様から、絵本やブロック、サッカーゴールなどのおもちゃ、折り紙や色鉛筆類、ドリルなどの学習用品の寄付をいただきました。たくさんの贈り物を目の前にして、子どもたちは、歓声を上げ、とても喜んでいました。

いただいたおもちゃを使って、お友達と仲良く遊ぶこと、約束を守ること、譲り合うやさしさ、物を大切に扱うことの大切さを学んでいます。

神戸製鋼さん、本当にありがとうございました。



僕の・・・私の・・・「夢プラン」 地域支援センター あいあむ

～ 言葉にできない“夢”を叶える ♪ ～

障害があるからと・・・意思が分からないからと・・・ あきらめているのは誰でしょう？
ご本人にとって意思と違うことがあるかもしれません・・・。
でも！ “こんな暮らしがしてみたい！”と一緒に考えることが支援者の役割だと常に心に♪
合い言葉は、やらないければ始まらない！”



夢プランはサービス担当者会議から始まった☆三

主人公は A さん

【主人公】 A さん(31 歳)の場合

ウェルドニッヒ・ホフマン病(難病)。
生後5か月で人工呼吸器を装着。
何度も呼吸停止を繰り返しながら・・・
6歳から在宅生活を送っています。



「Aは、瞳孔で快・不快を教えてくれます♪」

「みんなと同じように暮らしたい・・・
同じように楽しみたい・・・
とAはずっと思っているはず(母)」

会議ではこんな意見が・・・



主人公はこちらでちゃんと話を聞いてます♪

(夢プラン テーマ)

31歳の男性なら土日は何してる??

- ・冒険してみたいよね・・・(Bさん)
- ・アイドルに会いたいよね(Hさん)
- ・居酒屋でワイワイしてたいよ(Cさん)
- ・でも、Aはラジオから聞こえる相撲が好きよ(母)

30年度の夢プランは「大相撲観戦」&「保津川下り」に決定！！



肌で感じてきました！

平成30年4月6日(金)
大相撲 宝塚巡業へ
📷 同級生の妙義龍関と♪

爽快に下ってきました！

平成30年5月20日(日)
保津川下り(京都 亀岡)
📷 15名のボランティアさんと



あかりの家トピックス

Aさんが前向きになった

昨年度も愛媛県のトモニ療育センターから河島先生、高橋先生に来ていただいて研修を行いました。

「問題に対して向き合うのではなく、彼らにとって＜魅力のあるもの＞で関わりを深めていく」との助言のもと、Aさんと勉強や料理、手芸など取り組んでいきました。すると、Aさん自ら勉強に誘ってくれたり、料理では「次になにか？」と自らレシピを確認して、楽しみながら前向きに変わっていきました。うまくいったときにはピースサイン！そんな姿を前に、職員もピースサインです。



職員と一緒に時計の勉強をしているAさん。トモニから先生方が来られるのを特に楽しみにしていて、和やかな勉強の時間が過ぎていきます。

月に1度、職員と買い物に行き、レシピを見て豚汁を作ります。当初包丁を使うことを怖がっていましたが、今では写真のとおりの手つきです。

サッカー選手と支援員の二足の草鞋

Jリーグ昇格を目指している「バンディオンセ加古川」（現在、関西1部リーグ首位）の選手4名があかりの家、ワークホーム高砂、グループホームで支援員として働いています。たくましい身体で真剣に利用者と同じ向き合う彼らの姿は頼もしい限りです。

休日には利用者の皆さんと試合を応援に行きます！今後の活躍に期待です！



一人ひとりのカレンダー

「明日は作業あるの？」「いつ家に帰るの？」「レインボーデーはいつ？」など生活の（見直し）を立ててあげることは自閉症の方々の支援にとっても大切なものです。



Bさん
一日が終われば厚紙で隠し、次の日のスケジュールを確認します。



Cさん
毎朝、日めくりをめくって、マグネットの枠を動かして、今日のスケジュールを確認します。



Dさん
一日が終われば斜線を引き、翌日の予定を確認します。

働き方改革

利用者支援の充実と働きやすい職場を目指して

あかりの家でも改善委員会を立ち上げ、利用者支援の充実と働きやすい職場が両立できる環境作りにも、いろいろな角度から取り組んでいます。



手芸 大流行！

余暇時間を利用して職員と手芸などに取り組んでいる利用者が多くおられます。完成したら必ず園長をはじめ、たくさんの人に見てもらっています。「スゴイヤン！」「メッチャエーヤン！」と褒められて自然に笑顔が出てきます。それが原動力となって「しよか！」と職員を誘って次の作品作りに向かっていきます。



Eさん
こぎん刺し



Fさん
スクラッチアート



Gさん
クロスステッチ



Hさん
スクラッチアート



Iさん
クロスステッチ



Jさん
編みもの



Kさん
刺し子



Lさん
パズルぬりえ



Mさん
刺し子



Nさん
スクラッチアート



成人の事例 ～相談をとおして～

ひょうご発達障害者支援センター クローバー

発達障害もしくは発達障害の疑いがある人の相談が約年間 2,000 件寄せられます。その中でも成人期の相談が全相談件数の50%を占めており、相談内容としては就労に関すること、ひきこもり状態、暴力行為、触法など様々な相談が寄せられます。その中で、就労の相談例を挙げさせていただきます。

<事例概要>

- 幼 児 期：3歳児健診にて、医師より「自閉症の傾向がある」と指摘された。しかし、両親はそんなことない、と思い放置をしてきたが、今思えば、言葉がオウム返しだった。
- 小 学 校：帽子を隠されてパニックになり、その様子を面白がられていた。一方で、勉強が出来ないと父親は思ったことはない。
- 中 学 校：自転車の鍵をよく失くしていた。陸上部に3年間所属し、同じ部活の1つ上の先輩が鉄道好きで親しくしていた。成績としては3・4があり、社会や国語は5を取れていた。社会に関しては、実力テストの男女別の成績で、1位になったこともあった。学業面に関しては、父親は心配をしたことはなかった。
- 高等学校：成績や自宅からの距離で進学先を決定した。陸上部に入部したが、1～1.5年で辞めた。友人との交流は少なかった。
- 就 職：高卒で鉄道会社に入社した。適性検査の結果から、車両整備に配属された。作業の目立った遅れ等でパニックになることもあった。また、工具の力の入れ方等に困難さを感じていたこともあった。その後も様々な部署に配属されたが、ルーティンワークならば作業の従事は可能だった。

<経過より - 繰り返される失踪 ->

部品発注のチームに所属していた際、取引先が来たときにうまく対応できず、翌日、死ぬつもりで鳥取に行った(1回目の失踪)。また、本人の手違いで上司に確認を取らずに依頼をし、そのことで、上司から仕事の進捗状況を尋ねられた際にパニックになり翌日から行方不明(2回目の失踪)。数日後に本人が家に戻っていたところを両親に身柄を確保された。

実家に連れて帰り、何かをさせた方がいいと考えた父親は料理をさせた。しかし、数日後に「苦手なこと(料理)ばかりさせる家にはいたくない。死んでやる」という遺書めいたものを残して行方不明になった(3回目の失踪)。

その後、会社の配属が変わったが、上司の指示通りの業務が進められなく、翌日にどんなことがあるのか怖くな

り、無断欠勤をして自宅に戻らなかった(4回目の失踪)。その結果、滝まで行ったが、飛び降りて遺体が見つからなかったら大変だと思い、実行せずに「滝に居ます」とメールを両親と上司に送った。これまでのこともあったので、両親は捜索願を既に出していたので、警察が来て保護された。保護された翌日から休職(最長の3年間)となった。

<自分理解の支援>

本人は10年以上勤めてきた職場でもあった為、復職(事務職)を希望していた。しかし、障害を開示しない形での勤務で、職場からの配慮は望めない状態で復職をしても、部署を転々とするだけで、本人に適したところを見つけにくく、会社側としても対応に苦慮しているように思えた。そのため、本人の特性を知る為に知能検査を実施し、休職期間を利用して職業評価も受けてもらった。その結果、決まった作業内容の方が本人には向いていることが窺えた。同時に、一般での雇用を希望するのか、障害者雇用(障害者手帳を用いての雇用)を希望するのかを確認し、精神障害者保健福祉手帳の取得を勧めた。

休職期間中、現在の企業から完全に離れてしまうのは気持ち的にはまだ厳しいと感じた為、勤務している企業に関連している特例子会社の見学に職場の上司と共に行ってもらった。その結果、清掃作業での体験実習を特例子会社ですることになり、手続きの都合で現在の所属先からの退職が必要となった。この時点で、本人としての辞めることを決心するタイミングとなった。そして、体験を経て、事務作業よりも軽作業系の方が自身に向いているのではないかと本人も感じ、作業内容の方向転換をすることになった。

休職中や退職してからは軽作業系での職業訓練に毎日通ってもらい、清掃作業の訓練も行ってもらった。

<適職への就職>

毎日の職業訓練への通所は休むことなく続けられていたので、体力的には問題がないと感じた。そのため、ハローワークの障害者求人で見学していると思われる求人を本人に情報提供をした。その企業が鉄道会社(特例子会社)だった為、本人も乗り気となり面接を受け採用となった。

あかりの家 自閉症療育のキーワード集(15)

「第24回あかりの家事例研究会」研究誌より

<実践の中で得たエッセンスをことば>にし始めて16年になる。ミニ事例も300を越えた。以下、『第24回あかりの家事例研究会』(‘18.2)研究誌の「あかりの家自閉症療育のキーワード集18年度版」からの抜粋である。

新1 「ムリ」じゃあない！—お母さんとの“共闘”—

Mさんの髪はお母さんが切られていたが、あかりの家では、職員が美容院に連れて行っていた。何年前か、お母さんに、「美容院にも行けますよ」と勧めた。しかし、「ムリ」とのことであった。

そのお母さんに、ある時「付き添うから行きましょう。暑がりだし、髪が多いし」と働きかけて美容院行きが実現した。そして当日、落ちていてカットしてもらったMさんの姿を見たお母さんはとても喜ばれた。翌月からは、お母さんが美容院に連れて行かれるようになった。

引き続いて、あかりの家では目覚ましで起きる練習とクロスステッチに取り組んだ。帰宅時、布団に入っていることが多いと聞いていたからである。そして、帰省する時には目覚まし時計を持たせた。お母さんに「鳴ったら必ず起こして下さい。昼間はクロスステッチをしてみてください」とお願いした。

運よく、お母さんにはクロスステッチの経験があった。爪楊枝を糸と布の間に引張りすぎないように調整しながら、<二人の作品>を完成させた。実はこれも当初「ムリ」と言われていたのだが、見事、Mさんの帰省時の習慣とされた。たくさん作品が出来あがり、あかりで飾ったり、園長に褒めてもらったり「あかりだより」にカラー写真で紹介したりした。

そしてもう「ムリです」と言うお母さんではなくなった。むしろ、色々な取り組みを楽しめるようになった。

そのお母さんが病気になるまで、職員と一緒に作った帽子やマフラーや千羽鶴をプレゼントした。その甲斐あって!? お母さんは今元気だ。(‘17. 内田)

新4 「あかりの家そつぎょう!」してGH「友愛の家」への出発

自閉症の人たちのグループホーム「友愛の家」の新築完成を前にして、Zさんを含めた5人の保護者の皆さんに説明会をもった。

Zさんのお母さんは悩まれた。30年あかりの家で過ごし、「あかりの家が好き」と言うZさんを前にして、敢えて今更グループホームに移る気には中々なれなかったらしい。

そして何カ月か経った頃、Zさんのお母さんに再び話を持ち掛け、真新しいGHの見学にご一緒した。そして部屋を案内し「もし入るとなると、この部屋かあの部屋になります」と話した。その瞬間、Zさんが「Zくんここ、ここがいい」と言い出した。その言葉でお母さんの気持ちが一気に変わった。家に帰ると「あかりの家そつぎょう!」と話したらしい。

GH行きが決まると、次は支援員側の課題、GHへの移行を成功させるための取り組みである。

まずは、変化に伴う様々な混乱をどうにかして最小限にしなければならぬ。いつ引越しをし、どこで寝るのかなど、繰り返し確認した。GHで使うベッドや日用品を一緒に買いに行き、一緒に部屋に設置し、「ここで生活をする」ことを分かってもらえるようにした。

そして当日、あかりから荷物を一緒に運んだ。GHに着いたら、日課表やカレンダーをもとにひとつ一つ丁寧に話した。

今では、GHで、掃除や料理など新しいことに挑戦している。本人の思いを優先させたお母さんの気持ちも、ZさんのGH生活をしっかりと支えていると感じている。(‘17. 道端)

新5 体操活動はオモシロイ～あのAさんが生き活きと～

作業の無い土曜日の活動の一環として始めた体操活動。ストレッチや模倣動作や大運動などをしてきたが、その間、利用者の皆さんや、職員の変化を目の当たりにしてきた。

あのAさんがこんなに生き活きた表情をしている! 当然、その生き活きた姿は、職員に伝わる。だから互いに有意義な時間になる。

①最初に支援員

体操活動は、課題が明確であり、結果がすぐ分かる。成功すればOKサインを、失敗すればどう修正して成功で終われるかを考える。場面場面で見て感じて考えて、そしてやりとりをする。楽しい!

②隔週土曜日の体操活動で帰省の勘違いが無くなった
あかりの家では隔週土曜日を帰省日としている。しかし土曜になっても帰省日かどうか分かりづらいAさんも、体操活動があれば帰省無しというサインとなって、帰省の勘違いは無くなった。

③体操活動では乱れない
あれこれ気持ちが揺れやすいBさんは、その揺れをしばしば行動化する。そのBさんを体操活動のメンバーに加えた。そして最初に「Bさんは皆の見本になって下さい。ちゃんとしないなら公民館から歩いて帰って下さい」と、申し訳ないが揺さぶって、励ました。それが上手く伝わった。体操活動では表情も引き締まって、問題も無い。

④失敗したらすぐにハードルを下げる
Cさんは、模倣動作などで上手くいかなくなると、拒否がはじめる。そこで、失敗したらハードルを下げて、成功をはさむようにした。そうすると次に移っても上手くいくようになった。そういった応援を通して、職員もCさんも、互いに楽に付き合える時間となった。

⑤体操活動から日常生活へ
高這いの姿勢維持が難しいDさん。体操活動で、手を着く場所に台を置き、段々低くして高這い姿勢を作り出し、うまく出来るようになった。今では、雑巾がけが出来る。

⑥体操ではうまく関われる
Eさんは、生活に支障もきたす程に同一姿勢を取り続ける。しかし、体操活動では違う。上手くタイミングをとって動きに成功すると、笑顔も見られる。新人職員は、こういったEさんを見て「動きたくない」のではなく「動けないのだ」ということを学んでいく。

⑦体操活動でく力抜き>
余暇時、リビングで、個別のストレッチやマッサージをする。しかし、Fさんは仰向け姿勢については、身体を固くしてできない。ところが集団での体操活動では仰向け姿勢ができる。そんな時、Fさんはあくびをすることがある。あかりの家では、そのあくびは、力みが抜けて出てきたものと考える。(‘17. 神戸)

新6 「頑張らないと、あなたはまた一人ぼっちになるのよ」

県外のA施設で、粗暴行為で集団生活が出来なくなったTさん。施設された居室で、TV中心の生活をしてきた。そのTさんを応援することになった。あかりの家で言うところのリハビリ的短期入所である。

初日、交流ホームでしっかり向き合って話をし、身体に働き掛けて力みを解いた。それから、あかりの家の玄関をくぐった。

3日間は軸職員との準マンツーマン状態で乗り切った。初日から、着ることが出来なかった下着を着て、夜も眠れた。日中はさをり作業班に入り、食事もお風呂もみんなと一緒に過ごした。美容院にも行った。

しばらくは「A施設に帰るの」との訴えが続いた。それが段々と「あかりの家にいるの」という言葉に代わっていった。彼女の心の変化に、嬉しくも内心複雑であった。A施設に帰って行くことは、両親や行政やA施設の覚悟の中での既定の方針であったからである。

期限有目的の数カ月のリハビリ的短期入所の最後は、あかりの生活とA施設での生活が半々となったが、あかりに帰ってくると「A施設に泊まったらあかり帰ってくるの」など話しかけてくるのが増えていった。寂しそうにぼそぼそと話すこともあった。私は私で「A施設でも頑張らないと、あなたはまた一人ぼっちになるのよ。お願いだから頑張るのよ!」と心の中でつぶやいていた。

送り出しにアルバムを作った。「あかりは卒業です」と励ましながら言い切ったりもした。A施設に帰る前夜、園長に「卒業」と大書した「卒業証書」を作ってもらって、ささやかな「卒業式」もした。そして、A施設へ帰って行った。(‘17. 渡邊)

お客さんキーワード

330 彼らの声

彼らはメッセージを送り続けている。暮らしにくさというメッセージを送っている。私たちは、そのメッセージを聞き漏らす。そのことは彼らの信頼を裏切ってしまうこととなる。

私たちは、彼らのメッセージを聞き漏らさぬよう、彼らの心の揺れ動きに思いを傾けなくてはならない。

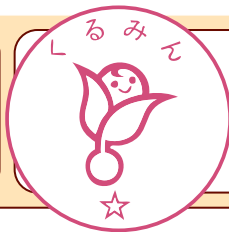
頰の筋肉の緊張が発するメッセージ、身体の揺れ動きが発するメッセージ、膝の角度が発するメッセージ、行動の変化が示すメッセージ。

そのメッセージを受け止めるアンテナの感度を、スーパーバイザー—養成実務研修から学んだ。(‘14. 県外事業所 佐野)

あかりの家イロイロ情報局

短期入所事業・日中一時支援事業

行動上の問題や、家庭のご都合などで、一時的に施設をご利用いただけます。昨年度は、自閉症の方を中心に延べ 2,747 日の利用がありました。



くるみんマーク取得

次世代育成支援対策推進法の基準に適合する事業所として、「兵庫労働局」より 2015 年 4月15 日付で認定されました。

障害児等療育支援事業

在宅障害児(者)及び家族を対象とした相談・療育を行う事業です。当事業では専属のスタッフがご相談をお受けします。ご相談をお受けした後に療育担当職員が以下のような支援をいたします。

- I: お宅にお伺いしてご相談をお受けします。
- II: あかりの家に来ていただいて、ご相談をお受けします。
- III: 通所施設、学校、保健所などにお伺いしてご相談をお受けします。

(在宅支援訪問療育等指導事業)
(在宅支援外来療育指導事業)
(施設支援一般指導事業)

自閉症専門 図書・VTRの貸出

あかりの家では、自閉症に関する専門図書、ビデオを約 400 冊保有し、希望する方に貸し出しています。

姫路親子体操教室

親御さんが子供さんの身体に働きかけながら、<親と子のいい関係>=主導と受容のバランスある力をつけていくことを応援しています。

手づくり納豆なっとこちゃん ワークホーム高砂

4月より、大粒“なっとこちゃん”に加え、小粒“なっとこちゃん”を新発売! お椀の形に入って、ふりかけ(ごま・のり・ねぎ)が付いています。「小粒を待ってたのよ」と好評をいただいています。是非ご賞味ください。



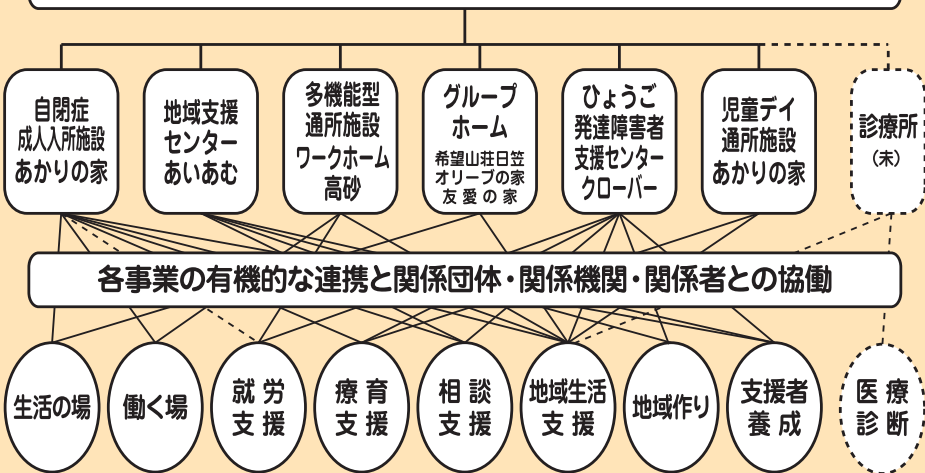
ナイスハートバザール あかりの家 さをり班

今年もアスパ高砂の協力を得て、オリジナリティ溢れる商品を販売いたします。また、さをり織りの実演、体験もしていただけます。是非とも足をお運びください。

日時: 12月 8日(土)・9日(日) 場所: アスパ高砂 セントラルコート



社会福祉法人 あかりの家 自閉症総合援助センター



利用者状況 (H29 年度)

(平成30年4月1日現在)

あかりの家
 施設入所 定員 40名、現員 40名 (男 31名、女 9名)
 生活介護 定員 40名、現員 48名 (男 39名、女 9名)
 ワークホーム 定員 40名、現員 43名 (男 33名、女 10名)
 グループホーム 定員 20名、現員 17名 (男 14名、女 3名)

- 出身別利用状況
 高砂市(36) 加古川市(20) 播磨町(7)
 姫路市(14) 神戸市(9) 尼崎市(2)
 小野市(1) 加東市(1) 神河町(1) 県外(3)
- 年齢
 あかりの家 最年長 63歳 最年少 19歳
 平均 施設入所 47.1歳 生活介護 44.1歳
 ワークホーム 最年長 54歳 最年少 19歳
 平均 就労B型 33.1歳 生活介護 38.7歳
 グループホーム 最年長 69歳 最年少 22歳
 平均 42.8歳

社会福祉法人 あかりの家

- 障害者支援施設 あかりの家
- 知的障害者通所授産施設 ワークホーム高砂
- ひょうご発達障害者支援センター クローバー
- 児童デイサービス あかりの家
- 地域支援センター あいあむ
- グループホーム 希望山荘日笠
- グループホーム オリーブの家
- グループホーム 友愛の家

〒671-0122 兵庫県高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079) 254-3292 FAX (079) 254-3403
 URL <http://akarinoie.org/>

〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079) 254-3292 FAX (079) 254-3403
 E-mail akarinoie@nifty.com

〒676-0081 高砂市伊保町中筋1331 TEL (079) 449-0701 FAX (079) 449-4111
 E-mail workhome@nifty.com

〒671-0122 高砂市北浜町北脇519 TEL (079) 254-3601 FAX (079) 254-3403
 URL <http://auc-clover.a.la9.jp/> E-mail auc.clover@nifty.com

〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079) 254-3292 FAX (079) 254-3403

〒671-0122 高砂市北浜町北脇504番1 TEL (079) 280-3740 FAX (079) 254-3403
 E-mail aiamu@mbr.nifty.com

〒676-0082 高砂市曾根町1704-4 TEL (079) 447-3136 FAX (079) 447-3136

〒676-0822 高砂市阿弥陀町魚橋375-16 TEL (079) 439-7183 FAX (079) 439-7183

〒676-0082 高砂市曾根町1704-5 TEL (079) 440-7817 FAX (079) 440-7817